

# 産業革命前の気候は完璧で人類は安全だったのか？

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

本稿はロジャー・ピールケ・ジュニア The Honest Broker 2023.12.27

When the Climate Was Perfect: Was the global climate of 1850–1900 really so great?

<https://rogerpielkejr.substack.com/p/when-the-climate-was-perfect>

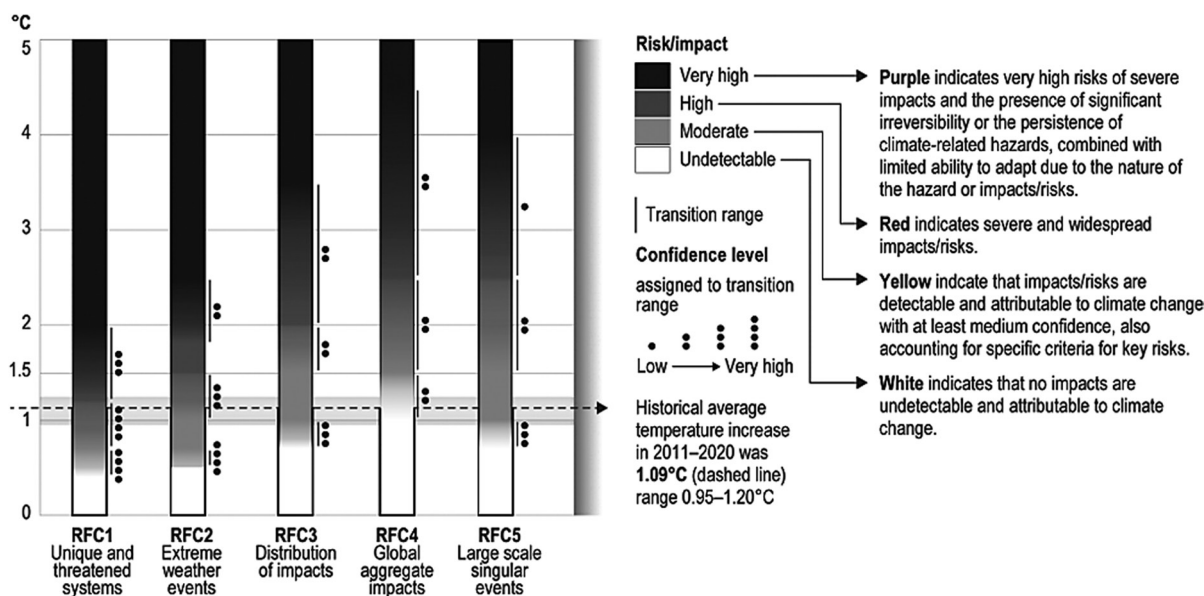
を許可を得て邦訳したものである。

世界の気候政策は、本来は、気候変動に伴うリスクの軽減に重点を置くものであったはずだ。ところがこれが、エネルギー政策によって精密に調整できる「世界の平均気温」を、地球上の生活の質を示す唯一の指標とするという奇妙なものに変容してしまった。

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の最新の評価報告書 (IPCC AR6 WG2 Figure FAQ16.5.1) の中にある、「異常な気象現象」や「大規模な特異現象」を含む「気候に関連するハザード」についての「懸念する理由」を取りまとめた下図にその変容ぶりが明らかにみられる<sup>1</sup>。

## The dependence of risk associated with the Reasons for Concern (RFC) on the level of climate change

Updated by expert elicitation and reflecting new literature and scientific evidence since AR5 and SR15



出典：IPCC AR6 WG2 16.5.1

<sup>1</sup> IPCC は、国連気候変動枠組条約よりも広範な「気候変動」の定義を使用していることを忘れてほしい。具体的には、IPCC は気候変動を次のように定義している。「気候の特性の平均値および/または変動性の変化によって（例えば、統計的検定を用いて）特定することができ、長期間（通常は数十年以上）持続するような気候の状態の変化」。気候変動は、自然の内部プロセスによる場合もあれば、太陽周期の変調、火山噴火、それに大気組成や土地利用の持続的な人為的变化などの、外部からの影響による場合もある。